

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 18 日現在

機関番号：82602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010 ～ 2011

課題番号：22890243

研究課題名（和文）

地域のシステム構築における保健師のコンピテンシーの開発・発展に関する研究

研究課題名（英文） Development of public health nurses' competencies in building and developing a community comprehensive supporting system

研究代表者 杉田 由加里 (SUGITA YUKARI)

国立保健医療科学院・生涯健康研究部・上席主任研究官

研究者番号：50344974

研究成果の概要（和文）：

地域のシステム構築に関する保健師のコンピテンシーの向上を図るために、コンピテンシーを習得する上で有用とされるリフレクションの促進要因に関して、国内外の文献の検討、5人の熟練保健師への半構造的面接から明らかにした。次いで、システム構築のコンピテンシー・モデルを提示し、コンピテンシーの発展プロセスと発展への影響要因を、リフレクション促進要因の視点を活用しながら、4人の保健師への継続的な面接より明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The factors promoting reflection among nursing practitioners were identified through a review of related literature, a semi-structured interview from five expert public health nurses (PHNs) for developing of public health nurses' competencies in building and developing a community comprehensive supporting system. The process and effect factors of developing competencies were clarified through a continuous semi-structured interview from four PHNs.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22年度	910,000	0	910,000
23年度	1,050,000	0	1,050,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,960,000	0	1,960,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：行政保健師 コンピテンシー リフレクション 地域ケアシステム 人材育成

## 1. 研究開始当初の背景

昨今、生活習慣病、虐待、うつなど複雑な健康問題が増えてきており、保健師が地域全体を捉えた活動を展開していくには、個別の関わりだけでなく、多機関・多職種を巻き込んだシステムを構築することが不可欠になってきた。保健師のシステム構築に関しては実践方法や基盤となる能力<sup>1)</sup>が明らかにされ

てきているが、この能力に関しては実践の中で十分に明らかにされていない。

そこで、能力を効果につなげる能力・行動特性であるコンピテンシーと捉え、研究代表者は地域のシステムを構築・発展させる保健師のコンピテンシー・モデルを開発した<sup>2)</sup>。本モデルの開発プロセスにおいて、保健師自身の考え方が活性化し、考え方や行動の有効

性を確認でき、自身の課題を設定することができるという本モデルの有用性を検証できた。しかし、この検証内容は、課題の設定までであった。

コンピテンシーの学習には、自身の経験を振り返ること、さらに他者の経験を取り入れることで進む<sup>3)</sup>とされていることから、これからシステムの構築に取り掛かる保健師へ本モデルを提示し、今後取り組むべきシステムの構築に関する実践の道しるべとなり得るかといった視点からも本モデルを検証していくことが必要と考えた。

先行研究では、中堅後期の保健師が特に重点を置くこととして、地域のシステム構築に関する能力であることが明らかにされている<sup>4)</sup>。しかし、中堅保健師が中心となり推進していく地域のシステム構築に関する能力の向上を意図した現任教育に関しては、まだ報告が見られない。

## 2. 研究の目的

中堅保健師の地域のシステム構築に関する能力の向上を図るために、これからシステム構築にとりかかる保健師へ研究代表者が開発したコンピテンシー・モデルを提示し、実践における能力や行動の指標となり、発展性をもつシステムの構築につながるか検証する。

## 3. 研究の方法

コンピテンシーを修得する上で有用とされているリフレクションを促進する要因に関して、国内外の文献を検討(研究1)し、さらに、地域のシステム構築において中心となっている行政保健師(リーダー保健師)が捉えているリフレクションを促進させる要因に関して明らかにした(研究2)。研究者が開発したコンピテンシー・モデル<sup>2)</sup>を提示することで、地域のシステム構築に関して中心となって推進している保健師がシステム構築に関する課題や行動目標を明確にし、上記で示したリフレクションを促進する要因を活用しながら、コンピテンシーの発展プロセスと、その発展に影響している要因を検討した(研究3)。

(1) 研究1：看護実践者のリフレクション促進要因に関する国内外の文献検討

検索期間を2001年の出版から2011年3月までとし、データベースは、医中誌とCINAHLを使った。

検索単語をreflectionにpromote, promotion, learn, learning, educate, educationを掛け合わせ、要旨に使っている英語あるいは日本語で書かれた研究文献とした。

医中誌は259文献、CINAHLは310文献が該当したが、看護実践者のリフレクションを促

進する要因を明らかにしていた文献は4文献のみであった。

(2) 研究2：リーダー保健師の看護実践に関するリフレクション促進要因

①研究参加者：地域のシステムを構築中であるリーダー保健師5名(保健所保健師2名、政令市保健師2名、町保健師1名)。

②データ収集方法：個別の半構成的インタビューを実施(平成23年3~5月)。インタビュー項目は、地域のシステム構築の概要とシステム構築に関わる中で感じた自身の能力に関する課題、課題がうまく進んだエピソードとその時に感じたこと、今後の実践への影響に対する予想、保健師経験年数やシステム構築の経験の有無等。

③分析方法：自身の行動や考え方に、今までにない気づきとなった出来事(以下、出来事)、この出来事に関する経験の意味づけ、新たな気づき、もたらした効果の一連の流れが確認できた箇所を特定し、出来事の中に含まれるリフレクションを促進した要因について内容分析した。

(3) 研究3：支援システムを構築・発展させるコンピテンシー獲得に対する中堅保健師の認識

①研究参加者：地域のシステム構築において主担当として携わった経験が浅く、システム構築に関する自身の能力を高めたいと思っている1自治体1名の保健師、計4名。

②データ収集方法

○調査開始時：取り組もうとしている地域のシステム構築に関する現状の課題について、研究参加者と同僚を対象として、グループディスカッションを実施した。

次に、地域のシステム構築に取り組むにあたっての研究参加者自身の課題や行動目標について、半構成的インタビューを実施。課題に対する気づきを促すために、コンピテンシー・モデル<sup>2)</sup>を活用した。

○調査経過中：地域のシステム構築に関して、研究参加者が実際にとった行動と意図したこと、今までにない行動や考え、その理由、その後の影響(周囲、自分自身)に関して半構成的インタビューを2ヶ月に1回程度、研究者が実施した。その際、リフレクション促進要因を活用した。また、取り組んでいるシステム構築に関する行事に参加観察した。

○調査終了時：取り組んできた地域のシステム構築の変遷や当初、捉えていた課題について、研究参加者と同僚を対象として、グループディスカッションを実施した。

研究参加者へ、当初捉えていた地域のシステム構築に関する研究参加者自身の課題の変化、変化に影響した出来事、行動目標の達成度について、半構成的インタビューを実施

した。

③分析方法：地域のシステム構築の変遷、研究参加者が獲得していたコンピテンシー、それに影響した要因に関して、時系列に整理した。研究参加者のコンピテンシー獲得に向けての変化、それへの影響要因に関して内容分析を実施した。

<倫理的配慮>研究2および研究3の実施に当たっては、所属施設の倫理審査委員会の承認を受けた後、文書と口頭により、研究の趣旨、匿名性の保持と途中棄権も可能であること等を説明し同意を得、実施した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究1

###### ①結果

4文献すべてが、病院の看護師のリフレクションを取り扱っていた。

研究方法は、エスノグラフィー1件、介入プログラム1件、インタビュー2件であり、全て質的研究であった。

リフレクションを促進する要因としては、失敗経験、納得できない実践といった気にかかっている状況に焦点を当てること、振り返りには、メンターやコーチとの面談、グループディスカッションといった対話の有効性が明らかにされていた。

###### ②考察

看護実践者のリフレクションを促進する要因を明らかにする研究方法は、質的研究方法が適していると考えられた。

インシデントや気にかかる状況に焦点をあてることで、どのようにリフレクションが促進されるか明らかにできると考えられた。リフレクションは対話により促進されると明らかになったので、メンターやコーチといったファシリテーターの存在が有用と考えられる。

分析対象となった文献は4件と少なく、今後の研究において、もっと多様な立場あるいは経験年数の看護師に焦点をあてる必要があると捉えられた。

##### (2) 研究2

###### ①結果

リーダー保健師が捉えていた、地域のシステム構築に関する実践におけるリフレクション促進要因は、6カテゴリに分類できた。出来事の要約を「」で、カテゴリを【】で示す。

「日頃、上司から言われ、課題と感じていた理論立てて考えることが、取り組んだ計画書作成、実施のプロセスと合致すると気づいた」等から、【思考方法のヒントを獲得】した。「小刻みな目標をたてたことで、今

までにない成功体験を重ねられた」等から【経験の想起による思い込みへの気づき】。「研修グループメンバーから、何をやりたいたのかわからないと言われた」等から、【文章あるいは口頭による伝え方の自身の傾向の気づき】。「同僚との話し合いで、ひらめき、考えがまとまった」等から、【対話による熟考できる時間・機会】。「計画書の中で主語を明確にしたことで、任せられることができた」等から、【試行による成功体験】。【所属部署における保健師としての役割の自覚】であった。

###### ②考察

リーダー保健師が地域のシステム構築に関する実践において、リフレクションを促進させるには、【思考方法のヒントを獲得】するだけでなく、【経験の想起による思い込みへの気づき】や【試行による成功体験】により促されていた。また、【文章や口頭による伝え方の自身の傾向の気づき】が生じることで合意形成が図られていた。

これらのリフレクション促進要因には【所属部署における保健師としての役割の自覚】や【対話による熟考できる時間・機会】の確保が重要であることが示唆された。

##### (3) 研究3

###### ①結果

研究参加者は、地域のシステムを構築中である保健師4名であった。A氏(40代、政令市)は、運動を中心とした健康づくりをボランティア住民主導で実施する会を普及・推進する仕組み、B氏(30代、中核市)は、地区の健康を考える会の活動を地区全体へ増やし発展させる仕組みであった。C氏(30代、県型保健所)は、ケアマネジャーとの連携を図りながら継続看護を推進する仕組み、D氏(30代、市)は、担当地区の高齢者支援連絡会の活動を充実させる仕組みに取り組んでいた。

A氏は、当初、その時に必要と考えられる企画をたてることのできる、活動評価の方法を会得する、先輩をモデルに的確な情報収集力をつけるといった課題を捉えていた。企画力に関しては、「自分の担当学区内ならできる」と明言できるようになっていたが、他の保健師の担当学区まで足並みをそろえるといった、同僚間の調整の難しさを感じ、コンピテンシー・モデルの“合意にもとづくチーム結成”が自身の課題だと、さらに課題を明確に捉えるようになった。

B氏は、地区の健康を考える会を進行していく際のファシリテーターとしてのスキルの向上を図りたい、今後の方向性を明確にするため文献を活用する能力を高めたいと自身の課題を捉えていた。「文献に対する読み

方は確実に半年前と比べるとかわったなという実感がある」と自身の変化を自覚していた。そして、「実現をさらに確固たるものにするには、関係機関の現状把握をし、戦略的に行動する。これが必要なんだと思う」とコンピテンシー・モデルの新たな項目に自身の課題を見出していた。また、実践報告としてまとめたいと研究者へ相談するようになっていた。

C氏は、客観的なデータを引用しながら、住民ニーズを示すことで、目指すべき姿を明確にし、関係者の合意形成を図ることができる、所内でのチームビルディングを図る、文献を活用し、実践していることの論拠を得たいと課題を捉えていた。所内のチームビルディングに関しては、「地域づくりをしていく保健所の機能なんだ。一人の担当者だけでなく、保健所の機能なんだと提案することができ、上司たちが発展的に受け止めてくれた」と自身を評価していた。また、文献活用に関しては、「普段回覧しているものからも意識して必要なものをストックし、加工して提示していくことを実施した」と、実際に活用することも実施していた。

さらに、「研究的に取り組むことによって、いろいろ調べる。それが大事だと思う。報告としてまとめたい」と保健師としての姿勢を明確に伝えるようになっていた。

D氏は、その時に必要なことを自分の中で明確に捉え、それを相手に伝えることができ、理解を得るようになりたい、文献を活用し多様な視点を持ちたいと課題を捉えていた。「その場その場のしるぎではなく、その先の目指すべき姿をきちんと示してこうなるためにはどうしたらよいかということを考え、記録するようになった」と自身の変化を捉えていた。

さらに、「今の状況を見極められて、何をすべきか考えられるようになりたい、そうすることで、後輩へのアドバイスもできるようになると思う」と自身の次の課題を捉え、なりたい保健師像を具体的に捉えるようになっていた。

研究者は、4人各自が当初捉えていた課題に関して、文献を活用できるように関わり、インタビューごとに実際に起こった出来事を振り返り、出来事に関連する自身の能力に関してリフレクションを促進できるように関わった。インタビュー終了時には、文献をさらに活用したい、実践報告として報告したい(B氏、C氏)など、さらなる目標を立てるといった学習意欲が向上していた。

## ②考察

地域のシステム構築に関するコンピテンシーを獲得していくには、実施した実践に関して、自分自身がどのような影響を受け、何

を考えたのかといった振り返りを他者とともに実施すること、その時間を確保することが重要ではないかと考えられた。

## 【引用文献】

- 1) 岡田麻里他：個別的な関わりから地域ケアシステムを構築するための基盤となる能力，看護研究 37 (1)：65-78，2004.
  - 2) 杉田由加里：支援システムを構築・発展させる行政保健師のコンピテンシー・モデルの開発，日本地域看護学会誌 13 (2)，77-85，2011.
  - 3) 古川久敬：チームマネジメント．日本経済新聞出版社，164-166，2004.
  - 4) 佐伯和子他：行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の発達 経験年数群別の比較，日本地域看護学会誌，7 (1)，16-22．2004.
5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

- (1) 杉田由加里，和住淑子，黒田久美子：リーダー保健師の看護実践に関するリフレクション促進要因，日本看護科学学会；2011年12月；高知，第31回日本看護科学学会学術集会講演集，p.310.
- (2) Yukari Sugita, Saori Miyazawa: Factors Promoting Reflection among Nursing Practitioners: A Literature Review. Japan Academy Community Health Nursing ; 2011. June ; Kobe in Japan, the 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, p.115.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

杉田 由加里 (SUGITA YUKARI)  
国立保健医療科学院・生涯健康研究部・  
上席主任研究官  
研究者番号：50344974

(2)研究協力者

和住 淑子 (WAZUMI YOSHIKO)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：80282458

黒田 久美子 (KURODA KUMIKO)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：20241979

宮澤 早織 (MIYAZAWA SAORI)  
高齢・障害・求職者雇用支援機構 ・  
保健師